



えこふあーむトップより、石狩湾遠望
奥左:シリパ岬、手前:菜の花畑、右:じゃが芋畑、
その先:さくらんぼ／満開でした

《 経営理念 》

当財団は 生態系や自然環境に配慮し、
健全・正常な活動を考え・実践し、
地域社会の持続的な発展に寄与いたします。

今年も既に半年経ちました。ブドウは結実にむけて・・・、棚一面に枝を拡げて濃緑！今年も、関西より会員の傘カケ／農事支援をいただき、順調に生育中です。今年は、増収か？傘カケ＝房数が多いようです。

新年度の立ち上げは、茶の湯の受け入れ環境(玄関の改装)などの準備に掛かり、忙しく過ぎました。秋には古民家が新たな顔で、皆さんをお迎えできるように努めています。

4月下旬から北海道・沖縄へ。多くの出会いと新たな気づきをいただいていた一ヶ月の長旅から帰ってきました。

“えこふあーむ”／余市では有機農法実体験に。雪解け後の畑にジャガイモ・たまねぎなどの植えつけ、さらに昨秋走り芽を埋め戻した、いちご畑の草取りなど。ポプラの新緑に、サクランボなどの花木が一斉に開花。春の陽を浴びた雪解け後のりんご畑からは“姫踊り子草”やらカタクリの花などが一斉に顔を出し始めていました、賑やかな農場／自然を満喫してきました。有機栽培の農場は身を晒しても心地よく、体調など順調に回復しました。

オーナー牧野氏の目指されている**農芸学舎**／NPO準備中について、教授いただきました。GV／勝沼の古民家活用のヒントを得、この機会に“まがり家”の呼称は“**勝沼農芸学舎**”に改称。抛られる皆さんの新たな成長の場としての自覚を促し活用いただくべく、名実とも明確にいたしました。

奥右入り口のお蔵(白壁)赤い屋根が離れ(書道室)



沖縄は、復帰50年を越えた現状視察と平和行進への参加。平和志向の皆さんが元気に、近隣との平和外交:独自の道すじ／地域外交を模索はじめられるようです。

今回の旅は、“80歳の壁”に挑戦中の自身に対する試練でもありました。認知症かな？高血圧＝薬やめられない？などの不安に対するチャレンジ。薬は持参せず、身体動かす／行動することに解を求めての日々。なんとか、自信とりもどして帰ってきました。

皆さまは、いかがでしたか？お国のコロナ対策もやっと正常にもどりつつ、一安心。普段より怠り無く、免疫力の維持・高揚に努めて、豊かなライフをエンジョイされたものと拝察いたします。

さて、今号の内容は、以下のとおり、

- ① えこふあーむ牧野氏の目指されている



余市農芸学舎のご紹介と

GrapesVillage／勝沼の古民家の活用

- ② 茶の湯環境(玄関など)の整備。“気くばり、目配り、思いやり”／日本文化の継承
- ③ 秋のムジプロ同窓会⇒今年も10月に予定。若人の“**農芸学舎受け入れ**”を探ります。
- ④ 居場所あ・い・るの活動紹介

学舎裏の畑／**子供の日**

じゃが芋植え付け指導の牧野氏／右奥

I、余市農芸学舎／えこふぁーむ&牧野氏の紹介>

えこふぁーむ／余市通いは、これまで4年間。高校時代の先輩に紹介いただき、財団設立の翌年から春・夏・秋の年3回出掛けていました。牧野氏は、大阪生れの山梨育ち(県立甲府南高校卒)。北大からワイン会社へ。ブドウ栽培・育種研究に携わった後、1992年余市に有機農園『えこふぁーむ』を開設。昨年、30周年の記念コンサートを北大前の教会／札幌で開かれました。ブドウを中心に数百種類の果樹・野菜を無農薬栽培から消費者への直販売まで自営されています。

幼少期より、ヴァイオリン・ピアノ・聴音を始め、1994年に北海道農民管弦楽団を設立。農閑期には道内各地のほか、県外で演奏会も実施。同楽団の代表・指揮者などを務められ、今日まで人間が人間らしく幸福に生きるために、農と芸を合わせて取り組まれています。楽団員にえこふぁーむ／農場の片すみを提供。団員家族が有機栽培に抛られるさまはほのぼのとして、美しく映りました。牧野氏のお人柄！ 指導・助言も有効なようです。

以来課題とされている、NPO法人農芸学舎の設立趣旨書の冒頭には、

『わたしたちは、子どもからお年寄りまですべての人が大切な存在であると認識され、個性を発揮してお互いに支え合い人間本来の生き方である大地とつながった営みがある暮らしに基づいた社会をつくりたいと考えています。 (中略)』

このような社会を、**希望ある明るい未来に導くためには問題意識を持って自ら考え行動する人**が増えることが必要だと考えます。そのために、共に暮らすことを通じて、誰もが共に学び、思考し実践できる場を創ります。

(中略)

この学び合いの場では、かつて大地とつながっていた暮らしがあった頃のように、季節に合わせた農作業を中心に自然の恵みを生かす労働を行います。 (中略)

しかし、生きるために労働に専念するだけでは、人間は幸せになれません。生きるために必要な労働としての技を学ぶと同時に、人間が人間らしく幸福に生きるためになくてはならない芸術や文化について、学んでいきます。 (以下省略) 』と記されています。

☆ えこふぁーむの1日は、早朝から。北の日の出は早いです。

“**牧野氏との歓談が楽しみ！！**”

農芸学舎は農場トップのドームハウス。毎月・第二日曜の学舎から余市へ。1日は日替り、よに内山ソノ眺望は抜群。石狩湾まで見通すことができる、360度のパノラマ。道東:大空町／北見の大地が思い浮びました。

朝一番(4:30ころ)、身づくろい後、早朝作業。前日のやり残し作業など。さらに、

ハウス開け／風とおし・ハウス野菜の水やり、露地飼いの鶏への世話など

朝食後 農作業 ～ 中休み ～ 農作業

昼食後 農作業 ～ 中休み ～ 農作業

夕方 ハウスの締め切り、あと片付け。

夜 入浴～夕食／余市市内へ～ 就寝／ドームハウス (360度満天の星空は観賞に値します)

☆☆毎月の第2日曜日は、農芸学舎体験日

午前中は、農作業に。ふぁーむで用意された昼食をいただき、午後は丘上にあるドームハウス／学舎内でのトーク&演奏会。みな仲良く、歓談・エンジョイされての休日です。春は山菜取りからセルフクッキング昼食。秋には、近辺の縄文文化探訪など。環状列石や海岸の洞窟壁画／縄文遺跡の見学も。前日の有機市／小樽都通りを営んだあとの当日。牧野氏のサポート的な活動には脱帽。敬服のいたりです。

“北海道はミニジャパン”といわれています。ルーツは全国各地からの参じられた方達ばかり。みなさん、寛容です。山梨から飛び入りの私も直ぐに仲間に入れていただけました。

趣旨書に記されている

“**希望ある明るい未来に導くためには、問題意識を持って自ら考え行動する人**”は、GrapesVillage／勝沼に抛

られる皆さんに期待すること。目標・目的意識をもって、お越しいただきたく考えます。未だの方には、滞在中になんらかの**気づき**を得て、お帰りいただきたく考えてます。これまでは、初めに屋内の清掃をお願いしてました。今後は農事・ガーデニングなど、自然に触れ合ってから古民家に入っていただこうと考えます。

古民家の活用についても、今年は夏の**童謡鑑賞**／7月22日予定やら、秋の“**葡萄の郷茶の湯会**”／予定・離れでの書道など皆さんからの多彩なご要望をいただいています。芸＝日本文化にあたる部分かと思えます。期せずして、農芸学舎の趣旨と合致する内容。ここに、皆さんが人間らしく、幸せに生きていく命題があるように感じた次第です。私自身、書道を！！ まずは余市農家庭先の礎に記されていた“**身土不二**”の手習いから始める心算です。

Ⅱ、茶の湯／受け入れ環境の整備。まずは、玄関の整備⇒“おもてなしの心”が伝わるように。

先の総会で、提案をいただいた案件。江戸末期の養蚕農家に発する古民家に来場される皆さんに心篋った対応をすべく、多々の改装など／リクエストいただきました。

- ・ お迎えする玄関(階段脇)に、来客用お手洗いなど
- ・ 茶器などの備品は有志からご寄付をいただき、大切にお預かりし、都度活用いただきます。

“おもてなし”のころを大切にしてください。皆さんに語り、可能な策を考えていく心算です。

Ⅲ、ムジプロ同窓会／次世代の受け入れ

今年も10／21～10／22に、ムジプロ／Z世代が扱われます。次世代の皆さんには、学舎の趣旨を理解いただき、人間らしく、迷うことなく幸せに生きていかれるよう／気づきのプログラムを用意すべく、リーダーと準備中。具体的には、自律性の涵養。目標・目的意識と問題意識。さらに、課題の明確化と相互啓発による解決策までのお手伝いです。

ただの“楽しかった”でなしに課題を持ち帰り、日々研鑽努力され、各自の更なる成長を期待するものです。

Ⅳ、居場所あ・い・るの活動紹介

最近、“学校でもない・家庭でもない” 悩む10代、第3の居場所について、その意義が叫ばれるようになってきました。遅きに失した感は拭えませんが、子ども庁の発足と合わせて、騒がれるようになりました。

居場所あ・い・るには古民家を活用いただいて、早3年が過ぎました。その内容も落ち着いて、スタッフの皆さんの献身的な努力に“感謝・感謝！”。事務局不在の折にも皆さんで自主運営。夏には、夕べの童謡／音楽鑑賞会を予定されています。地元新聞社などへの広報活動にも努力されています。

願わくは、さらに多くの子供達が楽しく扱られるようなプログラムの用意が課題でしょう。この方も、学舎からの支援の手を差し伸べたく考える次第です。



居場所の皆さん！！！！
地元紙の取材時の一枚。笑顔イッパイ。賑やかでした
“感謝・感謝！ ありがとう！”

7月には会員ご夫妻が余市えこふあーむの見学に(7月21日小樽集合)。沖縄の会員も“牧野さんに会いに”と北海道入りさるようです。当方も先入りして、有機農法習熟／農事支援方々出向く予定。7／15の牧野氏の演奏会“トリオ・マモーレ”／小樽マリンホールにも。えこふあーむの見学を希望される方は、申し出てください。一緒にできたら、勝沼農芸学舎のキックオフ＝スタートアップ会にもなるかも！？

他方、露地飼いの養鶏／アニマルウエルファ(AW)やら太陽光発電による再生電力の自給は白紙に。課題も残しています。設立目的に沿ったSDG's:ソーラーパネル活用などは、採算面などを考慮して、継続検討です。

引き続き、皆々さまの積極的なご理解・ご支援に支えられながら、財団の設立主旨を体して、環境保全に努めSDG'sに添った豊かな地域社会の発展に寄与していく心算です。



- ホームページ立ち上げました！(スマホ閲覧は右記 QR コードから)

<https://www.soutofull.com/grapesvillage>

- 賛助会員制度の改定はHPの立ち上げに合わせて、これまでの

- ・ 年会費10000円をシニアコースに。
- ・ 若人向けに年会費5000円のジュニア／学生コースを新たに用意。

HPを立ち上げ、拡く募ることいたしました。返礼も干し柿／福袋のほか古民家泊体験も加え、多彩に。

Buttobi／ワイン蔵の活用は地元出身のソムリエが見つかり、ワイン試飲場・ジンパ withGVワイン などの活用を思案いただいています・

“Autumn Fest／秋祭り”／11月上旬／予定 **“葡萄の郷茶会”**など楽しみです。

役員の任期満了⇒退任に合わせ、新役員は茶の湯担当とあ・い・る／居場所担当の2名増。

(役員の総数は変更なし)

2階(旧蚕室)／母屋の整理(ボランティア募集中)。7月から掛かり、学舎の宿泊スペースに充てます。

III. SDVG'sに添った、今後の方向性(課題)

① Ecotourism の涵養

“生態系や自然環境に配慮し、旅を通して、自然に対する理解を深めようとする考え方、またそのような旅” (広辞苑より)

② 新任役員／次世代へのスムーズな引継ぎ 経営理念／エコツーリズムに沿った、人育て

③ 古民家 IT環境(PC、Printer)／事務室の整備 *WI-FIは、取りあえず事務局のものを共用いただいています。

茶の湯環境 ⇒ 庭先(回遊池・灯籠など)の整備

④ その他、地域の皆さんの期待に応える施策 お花屋／村のコンビニなど検討中

“焦らず、慌てず、侮らず！” に、**着実な漸進を！**

設立当初の経営理念・目的／定款に則した、“ブレナイ”活動をつづけます。

コロナ騒動もやっと治まり、日常が戻りつつあります。が、新たにRSウィルスやら？侮らず、**運動・笑顔・交流**／免疫力の維持高揚に努め、**“こころを楽園に！”**

生き抜かれますよう祈念いたします。

2023年 7 月

ECO[環境保全]フォーラム
事務局 前田栄一
一般財団法人ぶどうの郷創生機構

